

授業プラン（案）〈 漢字の^{ばけがく}化学入門 〉作成について

西尾 晴美（北海道・小学校支援学級）

○ 漢字の教え方に関心をもったわけ

私は、前任校で学習障害（LD）のお子さん S くんを小学校 4 年生から 3 年間担任しました。S くんは、読み書きにかなりの困難を抱えてはいましたが、実験が大好きで探求心があり、私とはすぐに意気投合し、たくさんの授業書やおりぞめをしたのしい 3 年間で過ごしました。授業書をしているうちにいつの間にか文章も読めるようになっていました。工夫が必要だったのは、漢字の学習です。ふりがなをふれば読めるのですが、書くことが苦痛なようでした。

少しでも楽しく漢字の学習ができないかと考えながら、『たのしい授業プラン国語』（仮説社）をパラパラめくっていると、尾形邦子さん（当時東京・小学校）の「漢字の化学入門～素粒子（字素）と原子で考える～」という記事を見つけました。理科が大好きな S くんもこのプランだったら、たのしく漢字を学んでくれそうと思えました。予想した通り、S くんは、漢字を字素（漢字をつくっているひとつづきの線）に分解して、その字素の入っている漢字を探するという学習に興味を持ってくれました。特に、第 2 部「漢字を原子に分解しよう」という学習を気に入ってくれました。

この学習のおかげで、「漢字を見る目」を持つことができ、漢字への抵抗感もかなり減らすことができたと思います。ただ、この時には本をコピーして使っていたので、プランがすぐに印刷できる形になっていたらいいなあと思っていました。

○ 漢字プランの広がり

その後、尾形邦子さんのプランをもとに森下知昭さん（群馬・当時小学校）が作成された〈かんじかくもん〉という漢字プランを教えてくださいました。説明が分かりやすく、字素（このプランでは「画」）見つけがしやすいようにリーダー線入りのマスも用意されていて、とても使いやすいプランでした。淀井泉さん（京都・当時小学校）も尾形邦子さんのプランをもとに〈字素と漢字〉というプランを作成され、さらに「部首かるた」を作成していました。

この時にも、漢字の大嫌いな A くん（当時 5 年生・言語学級）を担当していたので、お 2 人のプランを A くんに合う形で活用させてもらって漢字の学習を試みることにしました。「漢字練習するよ」というと、机に伏せてしまって全くやる気を示さなかった A くんでしたが、このプランには興味を示してくれて、少しずつ漢字の学習を進めることができました。

第 1 部「画と漢字」、第 2 部「漢字を分解しよう」を学習してきて、漢字を見る目が少しずつ育ってきたので、淀井泉さんが作成している「部首かるた」につなげてみることにしました。淀井さんの解説を参考にして、第 3 部としてプランの続きを作って学習してみました。

最初は、かんむりから学習すると分かりやすいと淀井さんの解説に書かれていたので、かんむりから始めることにしました。次は、へんの学習をして、最後に「漢字部首かるた」で楽しみました。覚えることが目的ではなく、あくまでも漢字に親しむというスタンスで進めました。校内授業研で

も、国語の授業を参観してもらい、「部首かるた」を一緒にやってもらいました。先生たちも知らないような部首をAくんが知っていたので、「すごいね～」とほめられていてとても嬉しそうでした。このような学習を進め、漢字大好きとまではいかなかったですが、嫌悪感を示すようなことはなくなりました。

○ 授業プラン（案）〈漢字の化学入門〉を作ろう

その後、私だけでなく、漢字の指導について困っている人が多いことを知り、〈漢字プラン決定版〉と呼べるようなものを作成してみようということになりました。

Zoomを使って検討会を開き、最終的には、淀井泉さんと西岡明信さん（大阪・支援学校）と私の三人で、小学校低学年や漢字の苦手な子、特別支援学級・学校の子などを対象とした授業プラン〈漢字の^{ばけがく}化学入門〉の作成を進めることになりました。

プランがある程度できると、実際に子どもたちと授業をしたり、サークルや講座などで体験・検討してもらったりしながら、その都度改訂をし作成を進めてきました。

当初は、漢字の苦手な子や特別支援学級や学校の子を対象に考えていたのですが、通常学級で実践してくれる方も現れました。どの学級、どの子どもたちでも、とてもたのしく授業ができたという報告があり、とても嬉しく励みになっています。

○ これからの願い

授業プラン（案）〈漢字の化学入門〉をもっとたくさんの方に授業にかけていただき、より確かなプランにしていきたいと思っています。

そして、この授業プランが日本中に広がって、漢字で苦しんでいる子どもたちに届いてくれたらいいなあと思っています。この授業プランをより多くの所でしてもらって、漢字に少しでも親しみを持ってくれる子どもたちが増えてくれたら嬉しいです。

● このプランの基本理念など

—淀井泉さんの資料から抜粋

1. 読み先習

本プランについて、竹内三郎さん（仮説社）から「漢字を書かなくてもよい画期的なプラン」と評価していただいた背景には、「読み先習」の理念がありそうです。

教育史においては沢柳政太郎や石井勲等により、「漢字の読みを先に指導し、読みがある程度身についたから書く練習を行うと効果が高い」という「読み先習の法則」が唱えられています。

これまでの自分自身の経験からも、漢字を書かせる指導を熱心に行うあまり、漢字嫌いを多く作ってしまうという懸念は強く感じていて、その傾向は漢字の苦手な子に顕著なようです。

ですから、この「読み先習」の法則は一考に値するものと思われ、特に漢字に対して抵抗を持つ子どもたちを想定しながら作られた本プランは、無理に書かせることなく、まずは漢字に親しませることを大切にしています。

2 . 見る視点

先にも書きましたように、漢字というものは〈点と線の集まり〉ですから、もしかすると一部の子には「読めない」「書けない」「覚えられない」という以前に、少し比喩的な言い方になりますが「漢字がみえない」という問題をはらんでいるような気がします。

そのような課題を克服するためには、まずは〈漢字を見る視点〉を身に付けることが大切であると思われます。

第一部で展開される「画」（字素）によるなぞり学習は、そのような視点を身に付ける効果がありそうです。

とは言いましても、すべての画を学習したり、画の名前を覚えたりする必要はなく、あくまで漢字を見る視点を身に付けるための学習であることから、このプランでは楽しみながら代表的な画に親しませることをねらっています。

3 . 部分から全体へ

画の学習によって漢字を見る視点を身に付けたとしても、画は漢字の部分に過ぎず、これだけでは漢字の全体像は見えてきません。ですから、画の次は、〈部分から全体〉へと進み、漢字の構成を身に付ける学習を行います。それが第二部です。

第二部では、画によって構成された小さなまとまりを「部品」と名付け、部品があわさって漢字ができあがるイメージ作りが学習のポイントです。

このことによって、漢字を見る視点がさらに広がり、漢字の全体像を大局的に見ることができるのではないかと思います。

また「部品」は次の「部首」学習へと続いていきます。

※ 淀井泉さんが作成した「部首カルタ」は仮説社で販売しています。1セット550円。

最新版の授業プラン、タブレット版のプラン、詳しい資料やプランの説明などをご希望の方は、下記へご連絡ください。お送りさせていただきます。より多くの子どもたちと授業をしてもらって、授業プランの感想やご意見をいただけたら有難いです。よろしく申し上げます。

ばけがく
〈漢字の化学入門〉についてのお問い合わせ、最新版のプランの希望、実践報告・ご感想は

西尾晴美（北海道） メールアドレス nishio@kawatano.echo.jp まで